

	課題分析	授業改善策
1年	<ul style="list-style-type: none"> 10の数の分解で、数と数字が結び付いていないため、誤答する児童がいる。(練習問題) たし算ひき算では、計算問題はできるが、文章問題ができない児童が多数いる。(ワークテスト) 	<ul style="list-style-type: none"> 10の数の分解では、具体物や半具体物を繰り返し使用し、数と数字とのつながりを理解させる。 文章問題では、ブロックを操作しながら考えたり、文章を一緒に確認しながら読んだりして、何を求められているのかを理解させる。
2年	<ul style="list-style-type: none"> 文章題と数の構成に誤答が多いことから、文章の読み取りや数の構成の理解に課題があることが分かった。(ベーシック) 「何時何分」は、単元テストからも定着度に差が見られることがわかり、定着が不十分な児童への対応が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章問題に線を引くなど、読解の方法を具体的に指導する。また、数カードなどを使って数の構成のイメージをもつ。 生活の中で積極的に時刻を読んだりかかった時間を確認したりする機会を設ける。また、タブレットのドリルパークなどを活用して繰り返し指導する。
3年	<ul style="list-style-type: none"> 場面図や単位換算の理解、表に正確に記録することに課題が見られる。(ベーシック) ひき算の筆算が正確にできない児童が2割程度いる。(ベーシック) 時刻と時間は、定着度に差が見られるので、定着が不十分な児童への対応が必要である。(ワークテスト) 	<ul style="list-style-type: none"> 東京ベーシック・ドリルやドリルパークを活用して知識の定着を図る。 授業でプリントや教科書巻末の補充問題を活用したり、家庭学習で練習問題に取り組ませたりすることで、計算力の向上を図る。 時刻と時間については、身近な事柄でイメージしやすい場を設定し、日常生活の中で時刻と時間に関心をもてるような問い掛けをするようにする。
4年	<ul style="list-style-type: none"> 図形の単元では、各駅コースや準急コースを希望する児童が多い。図形の単元を苦手と感じている児童が多いと考えられる。(レディネス) 既習学習が十分に習得できず、正しく筆算できていない児童がいる。(ベーシック) 図形の学習で、作図を苦手とする児童が多くみられる。(ベーシック) 	<ul style="list-style-type: none"> 図形の単元は準急コースを増やすなど、児童の実態に合わせ、どのコースを多く展開するか、柔軟に決める。 ミニ先生など、<u>学び合いの時間を確保する。</u> 作図に繰り返し取り組みせ、分度器や三角定規、コンパスの使い方に慣れさせる。量感をつかめるよう、指導を行う。
5年	<ul style="list-style-type: none"> 小数の四則計算が苦手な児童がいる。特に割り算に関しては、正確にできていない児童が多い。(ベーシック) 図形の面積や体積を求めることができない児童がいる。(ベーシック) 	<ul style="list-style-type: none"> タブレットのドリルパーク等を活用しながら小数の四則計算を繰り返し取り組みせ、計算方法を定着させる。 面積や体積の求積公式を確実に使いこなせるように、<u>図形の中の必要な情報だけを選択し、活用できるように繰り返し問題に取り組ませる。</u>
6年	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことが苦手な傾向が見られる。(全国学力調査) 授業において、自分の考えをもち、表現(書く・話す・発表)することに肯定的ではない児童が3割程度いる。(学習についてのアンケートより) 	<ul style="list-style-type: none"> 表やグラフの学習では、<u>「タイトル・縦軸・横軸・数値・単位…等」正しく読み取るために必要な基本的な知識を繰り返し指導する。社会や理科等、他教科で表やグラフを扱う際もそれらを意識して正しく読み取れるようにする。</u> 見通し、自力解決、発表・検討の流れを継続し、自分の考えを書いて表すようにする。また、ペア学習などを取り入れ、自分の意見を伝え、相手の意見を理解し、集団で学び合う場の充実を図る。